

令和4年度 第1回東京都北区児童相談所等複合施設運営指針検討委員会
議事録（要旨）

1 日時

令和4年10月6日（木）15時～16時45分

2 会場

北区役所滝野川分庁舎 大会議室

3 出席者

〈学識経験者の専門分野〉

児童福祉4名、弁護士1名、医師1名、民生委員・児童委員1名、
社会的養護1名

〈庁内委員〉関係部課長5名

4 議題

- (1) 区立児童相談所等開設に向けた進捗状況
- (2) 新たな児童相談体制の構築
- (3) 組織体制と人材確保育成等

5 発言要旨

- (1) 区立児童相談所等開設に向けた進捗状況

- 複合施設は、より動線等の配慮が必要である。
- 開設場所近辺には病院や大学などがあり素晴らしい場所である。

- (2) 新たな児童相談体制の構築

- 相談しやすい雰囲気複合施設に入りやすく誰でも立ち寄れる開かれた施設を意識して検討出来ると良い。
- 児童相談所と子ども家庭支援センターを別の組織とし連携を深める取り組みは良い。
- 子ども家庭支援センター等が担うポピュレーションアプローチと児童相談所が担うハイリスク家庭への支援について、それぞれの組織の溝に落ちないようトリアージする仕組みが必要だと考える。
- 子育ての課題は貧困問題とも繋がっていることがあり、経済的な問題がクリアすると解決することもある。複合施設と離れている福祉事務所との連携も重要である。

○子どもの支援を確実に行うには児童相談所と子ども家庭支援センター共に学校との関係を深める必要がある。

(3) 組織体制と人材確保育成等

- 教育と発達、児童相談を複合化できるのはメリットである。
- 発達障害等の療育機関が複合施設に入るのは良い。
- 複合施設内の各相談機能が同じ場所にあるというだけではその良さを活かさない。お互いに連携できるシステムが大切で、例えば顔を合わせて進行管理や情報共有会議を行うなど工夫が必要である。
- 福祉と教育の相談フロー図を作り学校にも共有すると良いかもしれない。学校と足並みを揃え、福祉と教育の壁を取り去る方策について検討する必要がある。
- 児童相談所や子ども家庭支援センター等の相談部門を中学校圏域で分けることは良い。
- 里親や家庭復帰などを担う地域支援係を大切に構想できると良い。
- 一時保護所等の派遣状況など開設時の経験年数は課題である。
- 精神的に消耗する仕事であり人員体制が課題である。

(4) その他

- 一時保護所と児童福祉司等の専門性を活かし、子どもをチームで支援する仕組みを検討し共有できると良い。
- 子どもの通学など教育や学習の保障をどのように考えるか、高校生やフリースクールに通っている子どもの支援をどの様に考えるか検討してほしい。
- 予防的な面で母子保健分野との連携も大事だが、施設を退所したケアリーバーも多く、今後若者支援の視点も必要になるかもしれない。
- 若者支援については、様々な価値観や状況にある子どもがいるので、何か一つ作れば良いということではなく、NPO 等を含め受け皿となる場所を考えていくべき。
- 外国籍家庭への支援をどうするかを考えていく必要がある。